



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

Vol. 23 Summer, 2014



1. Hello from All Corners of the World!

まず最初に紹介するのが、カナダのロッキーズ大学での2学期間の交換留学から帰国した中村龍人君です。入学当初から自分の将来の目標をしっかりと持った学生で、様々なことに果敢に挑戦する彼の行動力は見習うべきものがあります。留学先のカナダから帰国後は、夢を実現するための一歩を踏み出すべく次なる挑戦に向かっていきます。

🇨🇦 中村 龍人 (経営学部4年次生)

今 は誰でも簡単に海外留学できるようになり、単なる語学留学を就職活動の武器にするのはそう簡単ではなくなってきました。これから海外留学することを考えている人々へのメッセージとして、私がなぜ留学したのか、留学先で何をしたか、そしてどのように9ヶ月の留学を成功させたかについてお話します。

まず、私がなぜ交換留学をしたのかです。私はホテル関連の仕事がしたくて、OGUの経営学部ホスピタリティ経営学科に入学しました。そして、入学直後からあこがれのホテルでベルスタッフとしてアルバイトを始めました。その大型ホテルでは海外からのお客様が多いため、アルバイト入社した時に英会話のマニュアルを渡されました。しかし、実際にマニュアルを使ってお客様と会話をしてみましたが、ほとんど通じなかったのです。私はそのマニュアルをI-Chat Loungeに持って行き、何が違うのかを聞きました。そこでわかったのは、問題はマニュアルの英語ではなく私の発音の悪さだったのです。このことがあって、私は試験対策のための英語ではなく、会話で使える英語を勉強しようと決めました。週2回の英語の授業だけでは飽き足らず、積極的にI-Chat Loungeや国際センターに行くようになりました。そこでたくさんの留学生たちと友達になり、彼らから留学をするメリットを聞き、それに影響を受けて留学することを決めました。

次に、留学先のロッキーズ大学で何をしたかです。留学前の私の英語のレベルは決して高くなかったため、正規の大学授業ではなく留学生向けの英語授業を受講しました。私が派遣されたロッキーズ大学の英語プログラムには4つのレベルがあり、私は下から2番目に入りました。思ったより低いレベルに入った口惜しさはありましたが、そんなことを考えている時間がもったいないと思い、



イベントの様子<(上)本人左から2人目、(下)左端>



小学校訪問 (本人後方右端)

目次:

Hello from All Corners of the World!	1-2
CETルームシェア: 日本で留学疑似体験!	3
Spring Camp: 高野山高等学校で異文化交流!	3-4
新規提携大学: University of Alaska Fairbanks	4
私のオススメ in U.K.	4

初日から授業中はベストを尽くし、授業後は予習、復習を一生懸命しました。英語を英語で勉強する環境がとても新鮮で、自分でもわかるぐらい英語力がどんどん伸びていきました。今から思うと英語だけを2学期間集中して勉強できたことは、英語力の向上には非常に良かったです。

授業以外の部分ですが、ロッキーズ大学は留学生のためにイベントをたくさん用意してくれています。私は学期終了時に、イベント担当のスタッフから私が一番多く参加していたと言われるぐらい、ほとんどのイベントに参加しました。イベントは本当に様々で、現地のキリスト教の小学校に行き、日本についてプレゼンテーションをしたこともあります。このようなイベントに参加すれば、教室ではできないことにも挑戦でき、新しい人との出会いもあるので、私にとっては友人を増やすのに



も、語学力向上にも大いに役立ちました。

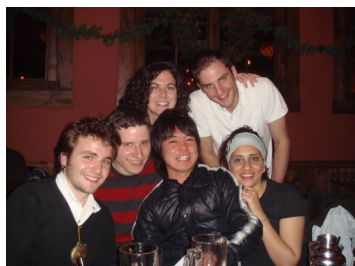
最後に、私がどうやって留学を成功させたかですが、私は英語を使う機会を自分で作るように努力しました。カナダは日本人留学生が多いです。海外で同じ国の人たちがお互いを助け合うのは当然で、日本人の友達を持つことも大切です。しかし、日本人を避けるぐらいの姿勢を持たなければ会話はどうしても日本語になってしまいます。私は極力日本人と離れて他の国

籍の友達と一緒に勉強しました。また、私は6人部屋の学生寮に住んでいましたが、日本を出る前に学生寮のマネージャーに日本人と同じ部屋にしないでほしいと直接メールを送りました。私が9ヶ月を通し必然的に英語でコミュニケーションを取らなければならない環境に身を置けたのは、私の考えを理解してくれる友達のおかげでもあったと、今は周りの友人たちに感謝しています。

留学に行く前から、なぜ、何を、どのようにと考え、目標をしっかり持たなければ語学留学は旅行になってしまいます。私は実際にカナダでたくさんの「観光留学生」を見ました。日本人留学生だけでなく他の国の留学生たちもです。皆さんも留学を目指すなら、留学中や将来自分が何をしたいのかを良く考えて、がんばってほしいと思います。

次は、在学中にアメリカのセント・トーマス大学に交換留学、卒業後同じアメリカのミシシッピ大学の大学院へ進学し、TESL(第二言語としての英語教授法)で修士号を取得した田辺君です。今は地元の静岡県で公立高等学校の英語教師をしています。大学時代から一貫して高く目標を定め、それを一つ一つ達成してきた田辺君。頑張れば、努力すれば不可能なことは何もないと思わせてくれる彼の生き方から、私たちも前に進む勇気をもらうことができます。Let's keep on dreaming!

田辺 大智 (2009年外国語学部卒業)



セント・トーマス大学留学時代に友人たちと (本人前列右から2人目)

現 在、私は静岡県の公立高校で英語教師をしています。今回は私が大学在学中から今までに学んだことや感じたことについてみなさんに伝えたいと思います。

みなさんはどんな大学生活を過ごしていますか。私にとって大学の4年間は人生を180度変えたと言っても過言ではない貴重な年月でした。現在こうして英語を教えているのも、OGUでの経験が始まりであったと強く感じています。

私はOGU在学中にアメリカのセント・トーマス大学に1年間、ケンブリッジ大学クイーンズカレッジに3週間と計2回留学をする機会を得ました。高校まで全く海外や英語とは無縁だった私にとって、大学時代の留学は非常に刺激的であったと同時に、それまで未知だった世界を知る素晴らしい経験になりました。海外ではスーパーでの支払い方法も分からない、銀行の口座開設ともなれば理解不能、日本の常識とは全く違う慣習。このような日々が毎日続いたため苦労はしましたが、いつも新しいことを学び、発見することもできました。セント・トーマス大学から帰国後、周囲の友達が内定をもらう中、もっと勉強したい、1年留学しただけでは役には立たないという思いがあり、大学院進学を決めました。そしてOGUを卒業後アメリカのミシシ

ッピ大学大学院に進学しました。今考えると内定を辞退してまで大学院進学を決めた自分が恐ろしいですが、27年間の人生でベストな選択であったと思っています。

大学院ではTESL(第二言語としての英語教授)を専攻し、言語学や第二言語習得論、教授法などを学びました。大学院入学前、私は1年間の留学経験があったので、心のどこかで多少の余裕を感じていました。しかし、大学と大学院は全くの別物でした。1日に約100ページのリーディング、毎週のようにやってくるレポートの締切り、プレゼンテーションにグループワーク。長期休暇が待ち遠しくてたまらない日々でした。また大学院の授業とは別に、ミシシッピ大学の日本語プログラムでティーチングアシスタントとして1年間日本語の授業を担当させてもらいました。TESLの授業と日本語の授業とで多忙な毎日でしたが、世界中から学生が集まる国アメリカで2年間勉強に励んだこと、今の私のLanguage teachingの原点となった日本語プログラムでの経験は、私にとってその後の大きな財産になりました。

こうして大学入学から今に至るまでを振り返ると、私には必ずその時、その時で明確な目標がありました。大学時代はセント・トーマス大学に留学する、帰国後はミシシッピ大学大学院に進学する、大学院時代は必ず修士課程を2年で修了する、そして帰国後は大学職員として国際センターで働くことでした。就職活動時には、幸いにも同時期に静岡にある公立大学職員の内定と公立高校の教員試験の合格通知を手に入れました。結局、大学院で専攻したTESLを少しでも生かしたいという強い思いにより、国際センターで働くということは選択しませんでした。こうして全ての目標を達成することができました。

多くの学生が何らかの目標を持って大学に入学します。しかし、入学時には同じスタートラインに立っていたにも関わらず、卒業する頃には4年間で成長に大きな差が生まれることが多々あります。目標は持つだけなら誰でもできます。その目標をどれだけ明確化し、適切なアプローチで計画的に達成することができるかが、大学生活を実りあるものにするキーだと考えます。4年間は本当にあっという間です。「あの時こうしておけば…」では遅いです。常に目標を達成した自分を想像し、一日一日を過ごしてください。ちなみに私は英語が流暢に話せる自分をいつも想像していました。そして、4年後「誰にも負けない4年間を過ごせた」と胸を張って卒業してください。Your time is limited, so don't waste it and keep on trying!



(上) ミシシッピ大学大学院の卒業式 (本人左端)



(下) 高校での授業の様子



2. CETルームシェア～日本で留学疑似体験！

OGUには学内でできる様々な異文化交流プログラムがありますが、最近とても人気が高いのがこのCETルームシェアプログラムです。2ヶ月から4ヶ月にわたって、アメリカ人留学生たちとアパートで生活し、お互いに異なる文化、習慣、考え方を学んでいきます。もちろん共同生活をする大変なこともあります。一緒に問題を乗り越え、相手を理解しようという心も生まれ、ますます絆が深まります。日本にいながら海外留学をしているかのような体験ができるルームシェアプログラム。あなたも参加してみませんか？

浅井 海（外国語学部2年次生）



CET送別会の様子

CETルームシェアは、外国人と交流したい、異文化を知りたい、英語を学びたい学生には最高のプログラムです。恐らく、これまで経験したどんなことよりも特別なものになると思います。なぜなら、このプログラムでは、アメリカの大学から来ているパートナー学生と共に生活し、何でも一緒に話し合い、色々な事を分かち合います。そして、そういう経験が海外に行かなくても日本で出来るからです。また、共に暮らす留学生が、日本という国にとっても興味を持っているので、日本人の考え方を理解しようとしてくれます。私は以前、オーストラリアに留学しましたが、私のパディの学生は、全く日本に興味がなく、とてもつらい思いをしました。だから相手が自分の国や自分の事を理解しようとしてくれるのは、とても嬉しいことです。

もちろん楽しいことばかりではありません。共同生活をすれば、時に考え方や習慣の違いに戸惑うこともあります。例えば、待ち合わせの時間に来なかったり、リビングに自分の物を置きっぱなしにしていたり。そんな中で私は3つのことを学びました。

1つ目は、自分の思っていることを相手に伝えることの大切さです。自分が思っていることは、言葉にしないと相手には伝わりません。だから、掃除してほしいとか、自分が使ったお皿は洗ってほしいことなどを言葉で伝えるようにしました。ちゃんと私の言葉を理解してくれた時は意思疎通ができたと感じられ、とても嬉しかったです。

2つ目は、時間を大切にすることです。初めは、4ヶ月はとても長く感じ、不安に思っていました。しかし、実際はあっという間でした。私は土日が忙しく、あまりパートナーと遊びに行けなかったのが今でも心残りです。もっとみんなで一緒にご飯を食べたりすれば良かったなと思います。あのかけがえのない時間は、もう戻ってこないと思うと少し寂しいです。

3つ目は、様々な文化や考え方があるということです。インド人の留学生がご飯を手で食べているのを見てびっくりしましたが、これは



和菓子体験（本人右から2人目）

彼女にとっては当たり前のことでした。また、髪の毛の長い女子留学生に、なぜそんなに髪を伸ばしているのか聞いてみました。すると、髪の毛を寄付するために伸ばしているのだという答えが返ってきました。このように、日々留学生から聞く話は驚きの連続でした。

最後に、私の夢は日本語教員になることです。今回のCETルームシェアでは、留学生から日本語についての質問をされた時に、日本語教員養成課程の授業で勉強したことが役に立ちました。また、この経験が日本語教師という夢の実現にきっとつながると思います。思い切ってこのプログラムに参加したことで、自分も色々な面で少しは成長できたと感じています。他の学生の皆さんにもこのプログラムをぜひ経験してほしいです。

3. Spring Camp～高野山高等学校で異文化交流！

OGUでは毎年5月に短期研修生を受け入れています。その学生たちがプログラムの一環として、高野山高等学校を訪問し始めたのが2012年。それから毎年、同校の高校生との異文化交流を行っています。訪問する度に、高校生と研修生たちが別れを惜しんでいる姿を見ると、こうした小さな草の根交流が国境、人種、言語を超えて人の心を結ぶのだと感じます。今回は、この異文化交流の橋渡しとしてご尽力くださっている高野山高等学校の富田先生の手記を掲載します。

高野山高等学校宗教科教諭 富田 向真

こうしん

縁あって、2012年から大阪学院大学国際センターの短期研修生の皆さんが毎年本校を訪問してくださっています。訪問のご依頼をいただいた当初は、本校にわざわざ来ていただいて喜んでいただけるのだらうかと不安でした。日本文化に触れることが目的で来られるので、そのことを主眼に何が出来るのかを考え、最初はホームルームで生徒からもアイデアを募りました。生徒たちは異文化交流をしてみたい気持ちは

あっても、自分たちに自信がないことや、恥ずかしさが先にたつてなかなか意見が出ませんでした。最終的には、本校の宗教科は全国で唯一の特殊な授業を展開していますので、高野山伝統の法会（仏教の僧侶が行う儀式）のミニバージョンと日本文化の一つである書道体験を通して、少しでも異文化体験をしていただけたらということになりました。

外部の方たちの前で法会を実施することは、生徒にとっても経験を積む貴重な機会です。こ



生徒さんたちによる法会の様子



れが高野山の宗教儀式だというもの came 来られた皆さんの目に焼きつくようにという思いで臨んでおります。また、書道体験では訪問された学生の方々に本校の生徒が先生役として書き順などを指導しながら、交流をさせていただいています。生徒たちは、英語や身振り手振りを駆使しながら思いを伝えます。書道の作品を手にした学生の皆さんが明るい笑顔になるのを見て、本校の生徒も嬉しくなり、来られたときには離れて様子をうかがっていた彼らが、いつも帰られるころには名残惜しそうにお見送りしています。引っ込み思案で恥ずかしがり屋な生徒ばかりですが、来ていただいた学生の皆さんに逆に心を開いていただき、本校にいながらにして異文化交流をさせていただいていることを皆嬉しく思っております。

高野山が世界遺産に認定されて10年が経ち、この10年で外国人観光客がとて多くなりましたが、生徒たちから話しかけるような勇気や語学力がありません。し



かし、大阪学院大学の研修生の皆さんの訪問を通して、英語を学ぶことの必要性や重要性を感じ、受け入れる側がどのようにおもてなしをすべきか知ることができます。またお越しいただいた学生の方々の出身国が自分たちの身近な国へと意識が変化するという素晴らしい機会になっています。

本校宗教科も必ず修学旅行は海外に行くようになりました。やはり百聞は一見にしかずで、若い年齢のときこそ、世界の一端を見ることが必要と考えております。本校の宗教科は仏教に基づいた、人間として素晴らしい生き方を学ぶことを目標と



(左) タイの学生と高野山高校生
(上) 書道の作品を手に(左からタイの学生、高野山高校生、富田教諭)

しております。日本の中で自分を見るのではなく、世界から自分を見る目を養う必要がこれからは求められます。日本の文化が注目される今だからこそ、異文化交流によって自分たちのあるべき姿を再確認し、自身の学びに替えていくことが必要です。そう言う意味でも、この交流は生徒たちにとって素晴らしい機会であると思っております。

3. 新規提携大学: University of Alaska Fairbanks

アラスカ大学フェアバンクス校(UAF)は、アラスカ州立大学システムの中では最も古い歴史を持つ大学で、1917年創立以来アラスカのニーズに応え続けてきました。というのも、UAFで最初に専攻として設置されたのは探鉱学と土木工学で、1898年のゴールドラッシュを受けてのことでした。また、UAFはアメリカでも珍しい陸・海・宇宙の3つの分野への助成金を受けている大学で、この分野の最先端の研究をしています。さらにUAFはアラスカ州で唯一博士号を授与している大学で、OGUと同じように短期大学、大学、大学院が一つになった総合大学です。学生は約200の専攻から自分の興味のあるものを選ぶことができるので、どのような学生でも自分が学びたいことを見つけるこ

とができます。

UAFを語る時に欠かせないのが「場所」です。UAFで学ぶ学生たちは、アラスカという場所が提供する様々なことを楽しむことができます。アウトドア活動だけでも、ハイキング、ロッククライミング、スキー、スノーシューなど、新しい体験には事欠かない場所です。また、アウトドアには興味がないという学生にも、キャンパス内で楽しめることが山積みです。アートギャラリーではほぼ毎週新しい展覧会があり、音楽学科は無料のリサイタルやコンサートを開き、舞台映画学科は毎学期ショーを制作しています。それに加えて学生生活オフィスが、様々なイベント、セミナー、フェアなどをキャンパス内で開催しています。

また、UAFの学生たちの多くはキャンパス



の学生寮に住んでいます。5,000人以上の学生たちがキャンパスで暮らし、ここでも多様なサービスを受けています。UAFは一つの街だと言っても過言ではないくらいです。これはある意味当然で、創立当時ここは「College」と呼ばれる街でした。信じられないという方は、Googleマップで検索してみてください。

交換留学プログラムでUAFに留学するOGUの学生たちは、見ることもすることもたくさんあって、英語を学びながら多くの友人を作ることができるだけでなく、アラスカについても学べること間違いなしです！

ジョー・アロウェイ(本学国際センター講師)



私のおススメ in U.K. ~Midori Hatanaka

「イギリスの料理はまずい！」と言われる。私もずっとそう思っていました。ですが、今回私がおススメしたいのが、言わずと知れた代表料理Fish-and-Chipsです。初めて食べたのは、地方のローカルパブでした。その後もあちこちで食べてみましたが、このFish-and-Chipsが思いのほかおいしいのです。カラッと揚げたタラに添えられているのは、太いチップス(日本で言うフライドポテト)。それをビネガーとタルタルソースで食べる。



仕事帰りの人たちが集まっておしゃべりに花を咲かせるパブでビールやサイダー(りんご酒)を飲みながら、揚げたてアツアツのFish-and-Chipsを食べる。想像するだけでイギリスに行ってみたくなりますか？(国際センター助教)



大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>